

あじえんだ

2006.10
第17号



相模湾の夕焼け

Contents

総会から.....	2
事業者部会の会員の紹介.....	3
上下流交流事業.....	4
・地引き網体験と海岸清掃	
さまざまな活動をしています	6
・流域材による家づくり「新月伐採」	
・シジミ類共同調査「川の日」ワークショップ 準グランプリ受賞!	
流域ウォッチング14 流域のまつり 山のまつり&海のまつり.....	8
いま流域で起きていること	10
良好な溪流空間の創造を目指して	
エコへの一歩	11
・石鹼カス奮戦記	
いま流域で起きていること	12
廃棄物処理の問題について	
=道保川事例報告=コラボレーションによる自然再生	
シリーズ「生きものたちの語る相模川」13「ヤマメvs.カマキリvs.スナヤツメ」.....	14
地域協議会だより	15
・桂川・東部地域協議会	・さがみはら地域協議会
・相模川湘南地域協議会	・相模川よこはま地域協議会

● 2006年度定期総会開催される ● ● ●

2006年度の事業計画や予算などを協議する定期総会が5月27日（土）に神奈川県相模原市にある「ソレイユさがみ」で開かれました。当日は、あいにくの雨模様でしたが、約80名ほどの関係者が集まりました。

基調講演では、四日市大学環境情報学部教授の松永勝彦氏を招き、「山・川・海のつながりについて」お話いただきました。先生は、森林が海の生物に果たす役割を科学的に明らかにした研究者であり、映像を交えながら説明していただきました。

後半は議事に入り、予算・決算・役員の改選等、全ての議案について承認されました。

松永勝彦教授の講演要旨

一般に春から夏にかけての海は魚介類の餌となる光合成生物（植物プランクトン、海藻）の餌が少ないといわれています。ここでいう光合成生物の餌とは、肉眼でみることが出来る物質ではなく、窒素（硝酸塩）、リン（リン酸塩）、ケイ素（ケイ酸塩）といった物質で、海水に溶けている成分のことです。これらは栄養塩と呼ばれています。冬期間は海水の鉛直混合によってこれらの栄養塩は光合成が可能な表層にも高濃度で存在しています。春になって光合成生物が増え始めると、2週間程度で光の届く深さの栄養塩濃度は零になってしまいます。光が届かない深さでの栄養塩濃度は高いのですが、表層の暖かい水と下層の冷たい水はほとんど混合しないので、下層にいくら高濃度の栄養塩が存在していても、太陽光が届かないので光合成生物はそれを利用することが出来ません。従って、表層に栄養塩が供給されない限り、魚介類の餌は作られないこととなりますが、実は森林の腐植土で作られたフルボ酸鉄や栄養塩が河

川や小川を通して沿岸海域に運ばれているのです。腐植土とは枯葉、枯枝、小動物の遺骸などが分解され、風化した岩石と混合した土壌のことです。

今日外材の輸入によって森林経営は困難になってきており、森は間伐もされず放置されているため、荒れはてています。このため、太陽光も入らないため、下草も生育せず、降雨によって表土は流出してしまい、腐植土は作られません。そのため、保水力もなくなるし、魚介類の餌となる栄養塩も作られていないのが現状です。

生物は水なしでは生きられません。私たちに最も大切な水を提供していただく山の住民に感謝しないとイケないでしょう。同時に漁業者（農業者）も、山の民に感謝しなければなりません。山での生活が困難になりつつある今日、山の人々が山を放置してしまえば、蛇口をひねっても水は出なくなってしまいます。また、魚介類も減少するでしょうし、農業用水の確保も困難になるでしょう。

多くの県で森づくり条例が制定されたのを契機とし、私たちも再度森林の役割並びに山で生活している人々が安心して生活するにはどうすべきかについて、つまり共存するにはどうあるべきかを考える時期にきているのではないのでしょうか。



● 相模原の環境をよくする会 ●●●

相模原の環境をよくする会は、昭和43年から市内河川の水質浄化活動を推進してきた「相模原の河川をきれいにする会」と、昭和53年から市内の大気環境の保全に取り組んできた「相模原の青空を守る会」が昭和60年に合併して設立されました。

現在、相模原市内の工場・事業所等を中心とした121の企業・団体等により組織され、「公害を未然に防止し、豊かな自然を守り、うるおいのある生活環境づくりに努め、もって快適な環境の創造に寄与する」ことを目的に活動しています。

平成18年度は、会の目的を達成するための事業として、次に掲げる事業を始めとした17事業の実施を計画しています。

まず、市民を対象とした事業としては、河川に生息する生物の調査等の体験学習を通して水質保全や河川愛護の大切さについて理解を深めるための夏休み環境教室や、市内に生息する鳥・生育する植物を知るとともに、自然への関心を高めるための自然観察ウォッチング（野鳥観察会・草花観察会）等を実施します。

次に、会員を対象とした事業としては、環境月間の周知を図るとともに、その趣旨に対する認識を深め、環境保全活動の実践を呼びかけるための環境月間ポスター作成や、県民の水がめである津久井地域の水源林と環境保全に積極的に取り組んでいる工場を視察し、環境保全意識の高揚と会員相互の交流を図るための水源地域等の視察、公害防止等に係る技術や知識、環境問題全般の課題を取り上げた環境セミナー等を実施します。



水源林・公害防止モデル工場視察



夏休み環境教室

次に、公害防止・環境保全のための調査研究事業としては、河川の水生生物を調べることによって中小河川の水質状況を把握するための河川生物相調査や、星空を観察することによって大気汚染状況を把握するとともに、環境保全意識の啓発を図るためのスターウォッチング等を実施します。



河川生物調査

これらの事業の多くは、会の発足当初から継続して実施し、一定の成果をあげていますが、会の発足から20年が経過し、環境に対する市民意識が変化してきていることや、地球規模での環境保全の取り組みが進められるようになってきたことなど、新たな視点での取り組みも求められています。

また、相模原市と津久井四町との合併による活動範囲の拡大に伴い、事業内容の更なる充実の可能性が広がってきており、今後も継続と見直しを織り交ぜながら、魅力ある事業の展開を通し、環境保全意識の啓発と快適な環境の創造を図っていきたく考えています。

「地引き網体験と海岸清掃」

2006年8月22日（火）茅ヶ崎海岸で上下流交流事業「地引き網体験と海岸清掃」が開催されました。今年は、海岸での体験を通じて桂川・相模川が注ぎ込む海の現状や森・川・海のつながりの大切さを体感してもらうことがテーマで、上流側から山梨県大月市の小学生21名、下流側から神奈川県寒川町の小学生25名をはじめ総勢83名が集まった海岸では歓声が途絶えませんでした。

この日、参加者の一番の楽しみである地引き網体験では皆で力を合わせて引き上げた網に、イワシ、アジ、カワハギ、スズキ等たくさんの魚が銀鱗を踊らせていました。新鮮な魚の天ぷらや刺身が振る舞われた昼食の後、財団法人かながわ海岸美化財団職員の柱本さんの指導で、海に感謝の気持ちを込めて全員で海岸清掃を行い、茅ヶ崎海岸を後にしました。

場所を移動して、財団法人かながわ海岸美化財団では、柱本さんから「海岸漂着ごみ等の現状について」講話をいただき、海岸ごみの7割は川から流れてくることを知り、川と海がつながっていることを再認識することができました。

最後の山梨、神奈川両県の小学生による交流会では「環境を守るために身近にやっていること」をテーマに学校や家庭で取り組んでいる事例が多数発表され、時間が足りない程の盛り上がりでした。

（茅ヶ崎市環境部環境保全課）



よいしょ!!よいしょ!! 何がとれるか楽しみです。

地引き網体験に参加して（船木 勇助さん）

力いっぱい引いた網の中に、巨大なエイがいた。漁師さんがうらがえしにして、腹を見せてくれた。かたいと思っていたけど、ぬるぬるしていた。意外とやわらかくて、びっくりした。イカの足には、吸ばんがあり、手にくっついた。

この生き物たちのためにも、ゴミをへらして、きれいな川にしていきたい。来年も行きたいです。

エイやクラゲもとれました。



地元新聞社から取材がきました。

地引きあみに行つて（佐藤 淳之介さん）

神奈川県にいて、一番楽しかったことは、力いっぱい引つぱったあみの中に魚がいっぱいいたことです。

地引きあみをした後、ゴミ拾いをして、たくさんのゴミにビックリしました。

また、地引きあみをしてみたいです。





海岸清掃開始!!



炎天下の中、茅ヶ崎市長が激励に駆けつけ、一緒に海岸清掃をされました。



皆で集めた海岸のゴミ



海岸清掃後はこ～んなにきれいになりました。

海がんのゴミひろい
(太田 美穂さん)

わたしのひろって多かったのは、木のくずとビニールと、タバコのすいがらでした。なみの方へ行ったら、いそぎんちゃくがいました。わたしは、海へなげました。わたしは、海っていいなあと思いました。でも、ごみがたくさんあると、魚はかわいそうだと思いました。後で海を見たらきれいになりました。ずっときれいな海でいてほしいです。

ゴミ、環境への意識 (小野 愛美さん)

「あ～あ、ゴミ多い」これが一番初めに思った事。
海といえばきれいな砂浜きれいな水というイメージですが、今回行った海はイメージしていたのとはかけ離れたものでした。
砂浜には、はじからはじめてゴミだらけ。ゴミを拾ってみると自分たちが使う日用品から、お弁当箱のゴミまでたくさんありました。身近にこんなたくさんのゴミがあるとは思いませんでした。
(海岸清掃は) みんなで協力してやったので(海岸を)半分以上もきれいにする事ができました。一人でやるよりもみんなでやると達成感が倍になったと思います。自分で見る事によって、さらにゴミ、環境について考えられました。
一人一人に対する意識が強ければ強いほどゴミは減らし環境もきれいになります。70%の川のゴミ、すべてのゴミを減らし、海にいる生き物や自分達のためにも、これからはもっと環境を大切に、積極的に活動に参加したいです。とても良い経験になりました。



山梨・神奈川両県小学生の交流の様子

(天野 啓太さん)

水や海、川、山などはつながっていて、どれか一つよごれても、なくなってもだめなんだなと初めて知りました。
夏休みの思い出ができてよかった。



(財) かながわ海岸美化財団で「海岸漂着ごみ等の現状について」学習しました。

● 流域材による家づくり「新月伐採」

木を伐採して家を建てる。

今も昔も家を建てることは大きな買い物です。

建築材に使用する木は、本来秋のお彼岸から春のお彼岸の間に伐採し、乾燥させ使用します。

「千年の木は千年の建築に耐える」ともいわれますが、京都、奈良にある日本を代表する神社仏閣の建築を見て分かるように、建てられてから100年～300年もの長い年月、カビ、腐食、害虫に強く、割れ、狂いが生じにくいという木造建築が存在しています。

野菜やくだものに、食べごろ「旬」という収穫の時期があるように、樹木にも伐採に適した時期があるのです。この時期を選び、樹木の生理活動で、冬に伐採するのが、建築材の旬となります。

樹木は、春から秋にかけて成長するのに必要な水分を吸収し大きく育ちます。秋から冬にかけては、吸収した水分を土の中に戻します。この繰り返しで、樹木は毎年生長していきます。

木にとって水分は、カビ、腐食、狂い等と並んで大敵とされています。

新築ブームの頃は、建売住宅を含め集成材や、合板等の材料を使用したことなど、かなり早いリズムで時が流れているように思われます。



伐採した樹木を囲む見学者

北都留森林組合 船木 示一



追い口を入れるところ

現代の家は、システムキッチンや目先の生活機能性を高めようとして工夫し、手をかけています。しかし、機能性を追求すれば、本来、木のもつポテンシャルは、低下します。

無垢材を多く使用して、合成接着剤による合板、集成材など、加工材への依存度が減り、地球環境への負担の低減やシックハウス被害を減らし、環境にもやさしい家づくりを進めていきたいと思えます。

森づくり専門部会では、流域材使用の促進に努めています。

9月23日には、新月伐採という、北都留森林組合としても、山と施主をつなぐ初めての試みを行いました。最近では、樹木の生理活動は、太陽と月とのリズムによって、大きく変化すると言われ、この時期に伐採するのがいいようです。

当日は好天に恵まれ、山梨、神奈川、そして東京からも、31人の参加がありました。参加者の多くの方が、木の伐採を実際に見るのは初めてで、倒れた木の年輪を数えたり、この木が柱になるのとか、設計士さんや大工さん伐採士さんにいろいろ話を聞いていました。

自然のポテンシャルを見直し、もっと自然の理にかなった永続的ないのちの流れを探していきたいと思えます。

流域材を使い、良い家づくりにしたいと思えました。

● シジミ類共同調査

「川の日」ワークショップ 準グランプリ受賞！

市民部会 宮野 貴

7月22日,23日の両日、東京の明治神宮参集殿などで「『川の日』ワークショップ」(以下“WS”と略す)が開催されました。流域協議会では、向上高等学校生物部(顧問:園原哲司教諭)と合同で「シジミ類共同調査」について発表し、幸いにも準グランプリを受賞致しました。今号では、その模様を紹介致します。なお、シジミ調査の内容につきましては、前号や『2005年度活動報告』を参照願います。

このWSは、昨年11月に参加した関東大会の上位に位置づけられる全国大会で、今年で9回を数えます。全国の水辺で様々な活動をしている小学生から老人まで、元気な“川ガキ”が大勢集まり、自分達の活動を趣向を凝らして発表します。私達は、活動を演劇風にアレンジし、アピールポイントを次の5点に絞って発表しました。

シジミという目立たない生物に焦点を当てて外来種問題を追及。

神奈川県内での初確認を始め、県内のタイワンシジミ分布を解明。

高校と研究機関、流域の活動団体とのコラボレーションにより全流域調査を実施。

これらの事実を、タイワンシジミ生息未確認の全国22県の内水面試験場等へ紹介。

ホテルの幼虫、カワナナの放流に伴ってタイワンシジミが放流されている事実を確認。

複数の審査員が公開討論を行い、どれが良いかを選んで行きます。おかげで聞いている私達は、ずっとドキドキの連続でした。

しかし、「シジミ調査」は、その新鮮でユニークかつ積極的な調査・情報発表方法が高い評価を受け、準グランプリを頂戴しました。これは、6年間もの、緻密で、しかも着眼点の豊かな向上高校生物部の皆さんの活動の成果です。おめでとうございます。私達は、改めて、向上高校生物部のすごさを全国の舞台で知ることとなったのです。



このWSの特徴は、自分達の活動を発表するだけでなく、他の活動から勇気とパワーをもらえることです。「へーそんなことやってんだ」「んー、頑張ってるな」「うわー、楽しそう」と、感動の嵐です。どうですか、皆さんも地域の活動を発表してみませんか。見ているだけよりずっと楽しいですよ！

韓国「川の日」WSへ参加

準グランプリ受賞により、兄弟大会である韓国「川の日」WSへ招待され、私達の代表として園原先生が発表して下さいました。



このWSでは、予選や二次審査、決勝ラウンドを行います。その選考方法がまたユニークで、

「川の日」WSのHP

<http://www.mizukan.or.jp/kawanohi/kawanohi.htm>



流域のまつ

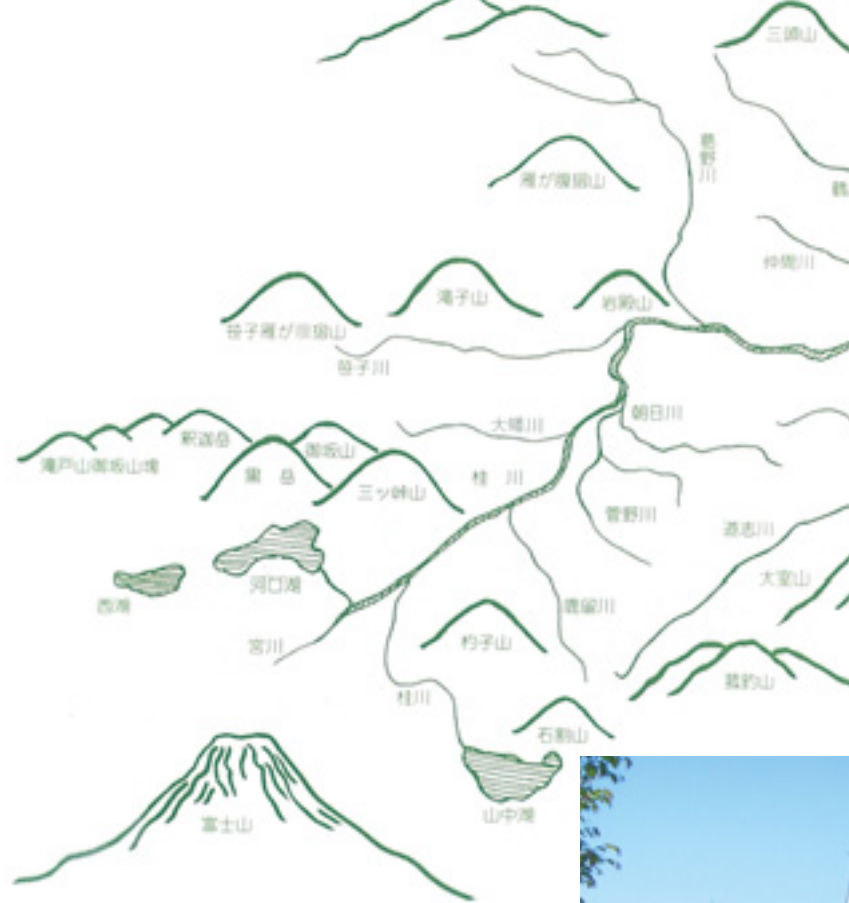
山のまつり

12年に一度の“ご開帳” - 幡野八幡神社式年大祭

幡野集落は山梨県大月市猿橋町にあるが昔から幡野(はたの)とよばれています。30世帯に満たない小さな集落ですが、五穀豊穡を願う春のお祭りがずっと続いています。古文書によると戦に敗れた武将がこの地に住みつき、西暦775年に応神天皇を祭る八幡神社を創建したと伝えられています。社殿は江戸時代に2回焼失し、その度に再建したという大変古い歴史があります。

幡野集落は中央線猿橋駅から数キロ南にはいった標高400mほどの山のなかにあります。相模川の支流である桂川に流れ込む小沢川に沿って段々畑があり、集落の上流には森林の他は何もなくて豊かなおいしい水が、集落を上から下へ走る一本だけの道に沿って流れています。大昔から水は枯れたことがないと言われています。

今年は12年に一度の宝物のご開帳という大祭が行われました。ご開帳した宝物は勅書と錦の御旗などで、勅書は帝が新羅を攻めよと命じたものとか。



この集落も高齢化がすすんでいるが、小学生もかなりいてお祭りでは笛や太鼓に大活躍した。今年の正月から夜、公民館に集まってずっと特訓を続けてきました。後日談ですが大祭が終わって神楽保存会が幡野集落に発足しました。子供たちに励まされて今後も継続的に獅子舞、笛、太鼓の練習をしていくことになりました。



神社は集落から20分ほど山を登ったところにあります。5月1日が神輿を担ぎ上げる“おのぼり”で2日が本番の式典と参詣神楽、3日が“おくだり”で3日間のお祭りです。





山のまつり&海のまつり



海のまつり

暁の祭典 - 浜降祭

梅雨明けが待ち遠しく思われた7月17日(海の日)に、茅ヶ崎市西浜海岸で『浜降祭』が行われました。早朝5時から茅ヶ崎市・寒川町の各神社の神輿が参集し、渚を乱舞する様は壮観です。7時には約40基の神輿が勢揃いして、五穀豊穡などを祈願する壮麗な合同神事が行われました。

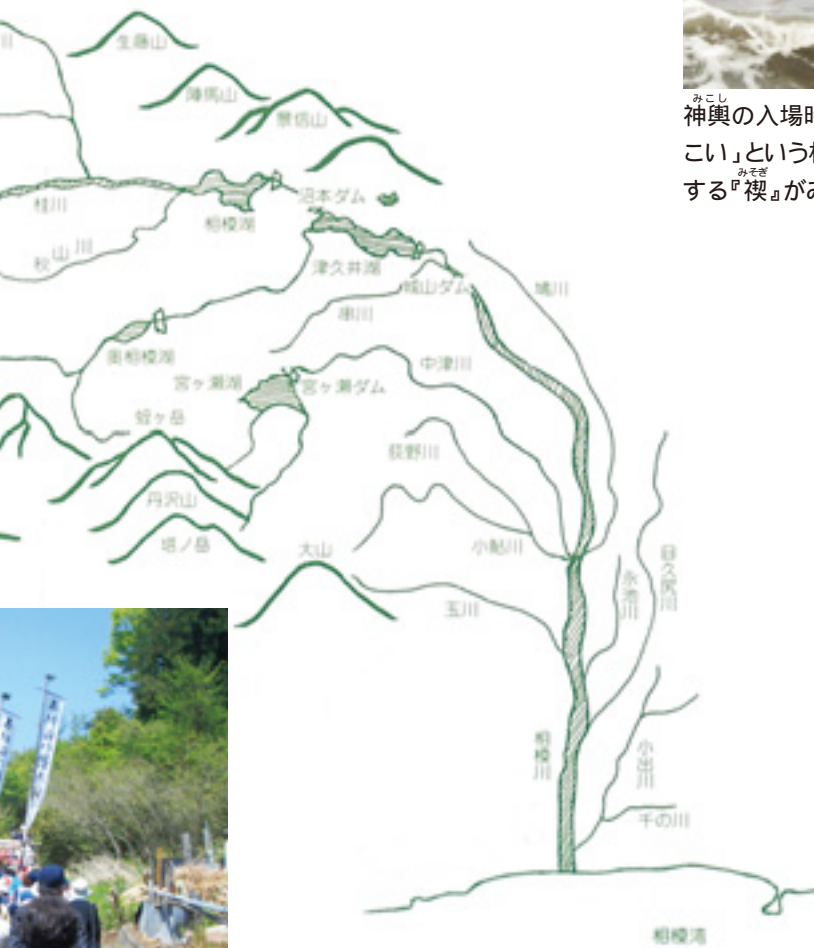
『浜降祭』は、複数の神社の多彩な神輿が集結し、海に入って『禊』を行うことを特色とする「暁の祭典」です。

この暁の祭典の終了とともに、湘南は本格的な夏のシーズン幕開けとなります。

【神奈川県指定無形民俗文化財】【かながわ未来遺産100】



神輿の入場時と式典終了後帰途につく時には「どっこい、どっこい」という相州神輿独特の掛け声とともに、海に入って乱舞する『禊』がみられます。



12年に一度の大祭には近所の7集落が神輿を担いで参加します。結婚や就職で集落を出た人も帰ってきて、田んぼの上につくった急ごしらえの広場がいっぱいになりました。800人分用意したトン汁とおにぎりが全部なくなったとか。



『禊祓』は、寒川神社の神輿が相模川の渡しを渡御した名残とも、鶴嶺八幡宮の神事であったとも言い伝えられてきた伝統の行事です。

●●● 良好な溪流空間の創造を目指して

山梨県富士・東部建設事務所長 佐野 今朝男

事業概要

山梨県大月市の相模川水系笹子川は、笹子峠に源を発し大月市を縦断して桂川へ合流する、流域面積 $A=87.5\text{km}^2$ 、流下延長 $L=15.6\text{km}$ 、標高差 $H=700\text{m}$ の急峻な一級河川です。

このため河道内には、上流からの土砂や転石の供給が著しく、洪水時には大規模な土石流となって災害をもたらす危険をはらんでいます。

特に氾濫域には、災害時緊急輸送道路である国道20号（甲州街道）や中央自動車道、またJR中央線、さらに多くの人家や重要な公共施設が集中しており笹子川の治水事業は非常に重要な位置づけとなっています。

このような状況の中で、大月市大月町の笹子川（ $L=770\text{m}$ ）において平成5年度より砂防事業として流路工（平成6年頃から良好な溪流環境を積極的に検討するということから「溪流保全工」と言っています）や床固工、魚道工を施工しています。



ヤマメ、アユなどの小型魚を対象に巨石を使用した魚道
留意したこと

当施工場所は、先に記述した幹線道路やJR中央線などからの見通しがとてもいいことから、溪流保全工の意図するところを積極的に反映する方針を取り入れ、通常のコンクリートブロックなどの二次製品を使用した旧来の工法を見直しています。良好な溪流環境として、「景観や親水性の向

上」「生態系の回復」を目指して自然石を使用した護岸や床固工、魚道工、さらに溪流へのアクセスを行いやすいように階段工を施工しています。



奥は国道20号及びJR中央線
周辺環境に溶け込んだ自然石護岸

改修状況とこれから

当事業は、平成19年度に完成します。当初の見込みどおり旧態依然の工法に比較して非常に良好な景観を呈していると思われれます。河床礫が多いことも幸いしたのか、自然石を使用した護岸は自然と周辺景観に溶け込んでいて、見るものを心地いい思いにしてくれそうです。

土木構造物は、一度造られると永くその場所に存在し、いろいろな意味で地域に大きな影響を与えます。我々発注者はそのことを肝に銘じ、今よりは次を、次よりはその次をというように更に良いものを残していけるよう努力していきたいと思っています。そのなかでも河川は道路と違って、自然そのものです。自然の驚異は恐れなければいけません、自然の優しさも享受するべきです。それには利用される方々の、「こうあったらいいのに」とか「こんなことはできないの」というような意見は大変貴重なものと考えますので、笹子川の溪流保全工に来られた際に皆さんが感じた率直な感想をお寄せ頂き、より良好な溪流空間の創造を目指していきたいと思ひます。

石鹼カス奮戦記

あらいそECOクラブ
早川 美幸



1人暮らしを始めてからは特売で購入していた洗濯用洗剤だったが、新聞の契約更新の度にもらうようになってから昨年まで、過去15年以上洗剤にお金を払ったことがなかった。

それが、昨年のある学習会で洗剤の実態について学ぶ機会を得てからは、洗濯石鹼をマメに買っている。タダ石鹼しか使っていなかった私にとって、当初、合成洗剤よりも割高な洗濯石鹼を買うのには若干の抵抗感があった。おまけにどうも上手く仕上がらないのだ。洗濯機の蓋を開けるとせっけんそのものの香りが。そして色の濃い衣類に白い粉のようなものが付く。「もしかしてこれが石鹼カスカ・・・」ブラシで取ったりガムテープの接着面でペタペタ取っていたが、どうも洗濯方法に問題があるのかな、とは感じていた。

そこで、体重計で計量した洗濯物を、予め泡立たせた石鹼液に入れるようにしてみた。さて、どうだ！しかし、カスがまだなくなる。石鹼を溶かすだけじゃまだ駄目なの？せっかく洗濯したのにまた汚している気分・・・ここでちょっぴりくじけそうになった。ふと、ディスカウントストアにおいてある合成液体洗剤に手がのび買ってしまった。洗濯機に入れた洗濯物に直接入れるだけ、華やかな香りで洗濯物が仕上がってくる。あ～、石鹼カスのない美しい仕上がりが・・・。しかし、この香り、なんだかまやかし物みたいでわざとらしい。それに、あの学習会で学んだ合成洗剤の影響（環境汚染や皮膚へのダメージ等々）を思い出すと、なんだか罪悪感がまとわりつく。

友達に相談したり本で調べてみて、どうやら私の洗濯の仕方では水位が低すぎるようだ。石鹼の箱にも「洗濯物を入れた後でも水面に手のひらサイズほどの泡が立つ量が適量」等と書いてある。ふーん、泡ね。洗濯機の蓋を開け、中をのぞいてみると・・・あれ？泡がないじゃない。ひたひたの白い石鹼液につかった洗濯物が

回っているだけ・・・

昨今の勝手に洗濯物を計量して洗剤量と水位を決定する洗濯機の多くは「節水型」であるため、今までのように洗濯物を放り込んで規定量の洗剤を投入するだけでは、洗剤が完全に溶け切らず、すすぎも不十分。生地のボリュームや大きさによって適量も変わってくる。長いこと合成洗剤&全自動洗濯機に頼っていたおかげで、すっかりお任せっきり姿勢に慣れてしまった私は洗濯機の中を覗くということを忘れていた。きちんと回っているか一目見てあげればよかったのだ。

それに気付いてからは、石鹼を十分泡立たせてから洗濯物を入れ、更に途中で覗いては石鹼を加えたり水位を上げたりするようにしている。石鹼を溶かしている間に汚れ物の下洗いもして、あの洗濯後の嫌な気分や罪悪感等を感じることも無くなった。こうして楽しくなってくると石鹼が高いなんて気にならないから不思議である。

そんな石鹼カスとの戦いを後に思うのは、全自動洗濯機への疑問である。洗剤液の再利用もできない。便利な洗剤溶解機能にも石鹼は使うなど書いてある。それに蓋を開けるとイチイチ動きが止まるし、お湯取り機能の途中解除もできないお馬鹿さんなのである。よーし、今の洗濯機が壊れたら次は2槽式にしようっと。でもその頃もまだ売っているのかしら・・・。そうだ、今の家は台所と洗面所が離れていて不便だからその頃にはリフォームして効率的に水仕事ができるようにしたいなあ～、などと新しいライフスタイルを夢見る筆者である。

あらいそECOクラブ

相模原市新磯公民館主催の女性学級で【「豊か」な生き方「地域」で探そう】をテーマに学んだ仲間が発足。活動は無農薬野菜の栽培、廃油石鹼作り等。家族や環境のため子育て中の私達でも出来る事を日々模索中

廃棄物処理の問題について

富士・東部林務環境事務所環境課 渡邊 茂

私たちの管轄している北都留・南都留地域は、東京都、神奈川県等に隣接し、首都近郊地帯になっています。これらの地域は2,000メートルに達する山間地帯に広がっており、そこを道志川、桂川、秋山川、鶴川、小菅川、丹波川が流れ、奥多摩湖、相模湖及び津久井湖に注ぎ、この地域の住民はもとより神奈川県民、東京都民の生命を支える水源であり、各市町村は環境保護に努めています。

しかし、心無い人達により廃棄物の不法投棄などが行われ、この良好な環境が壊されています。

このため、県、市町村、または、各種ボランティア団体等は廃棄物の一斉清掃などを行っていますが、廃棄物の不法投棄は一向に減らないのが現状です。



一般廃棄物の不法投棄現場

廃棄物の分類

産業廃棄物とは、事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、燃え殻、汚泥、廃プラスチック類等をいい、排出者の責任で自ら適正に処理するか、許可業者に処理委託しなければならないことになっています。

一般廃棄物は、産業廃棄物以外の廃棄物をいい、市町村がその処理義務を負うことになっています。

不法投棄物

一般廃棄物

当管内では、山間の道路沿いや人里離れた空き地などに、家庭から出たと思われる家具やテレビ、冷蔵庫等の家庭用の電気製品などの一般廃棄物の投棄が多く見受けられます。

家庭ゴミは市町村が処理しますので、決められた日に出していただき、テレビや冷蔵庫等は家電リサイクル法に従って処理をお願いします。

産業廃棄物

当管内の大規模な不法投棄には、自己所有地内に保管と称して木くず、廃コンクリート等を溜め込んだ例があります。

これに対して、県ではこの業者に度重なる撤去指導を行いましたが、一向に指導に従わなかったため、警察と連携し、業者の逮捕と同時に全量撤去の措置命令を行いました。

不法投棄発見時の対応

廃棄物の不法投棄に対しては、早期発見、早期対応が望まれます。投棄物の撤去には環境上の問題のほか、多額のお金や時間がかかります。県や市町村では各種の不法投棄の防止対策を講じていますが、地元の方々による監視が重要となりますので、身近な場所への廃棄物を持ち込み、埋め立てを行っている行為を見つけたら、市町村や関係機関への連絡をお願いします。



産業廃棄物の不法投棄現場

=道保川の事例報告=

コラボレーションによる自然再生

相模原市 土木部河川整備課 岩本直登

相模原市の概況

平成19年3月、相模原市と城山・藤野町の合併により面積約329km²、人口約70万人の新「相模原市」が誕生します。本市は、東京から約30～60kmに位置し、相模原地域を中心に急速な都市化が進み発展してきました。この合併を期に、相模湖、津久井湖、宮ヶ瀬湖など神奈川県重要な水源地域、並びに丹沢大山国立公園に指定されている豊かな自然環境が加わり、都市部、山間部共に、更なる環境共生のまちづくりを推進する必要があります。

道保川の多自然型川づくり

道保川は、都市部に位置しながらも道保川公園に源を発し、相模原段丘の崖線下からの湧水を集め連続した斜面緑地に沿って相模川に流れ込む、延長3.7kmの自然環境豊かな河川であります。しかし、近年の都市化による開発と共にコンクリート護岸や暗渠などの構造物が増え、都市河川のように変貌し始めました。そこで、治水安全度の向上と水辺空間の復元・活用を図るため平成12年度から「ふるさとの川整備事業」により工事を始めました。

工事は、本来の道保川が持つ環境特性を活かし、生物の良好な生息・生育における自生環境の復元と創造を図る「多自然型川づくり」により施工しております。



「道保川を愛する会」の発足

平成14年度からの工事期間中、説明会や打合せの機会をとらえ、道保川の環境や活用などの意見交換を2年間にわたり重ね、地元有志より「道保川を大切に守り、子や孫の遊ぶ憩いの場として残そう」との声があがり『道保川を愛する会』が発足しました。



目を澄ますと
自然の鼓動が
聞こえる川づくり!



“子や孫の遊ぶ憩いの場として...”

守り育てていきます”

平成16年4月、『道保川を愛する会』と『市』は「街美化アダプト制度」による合意を締結し、改修直後の護岸覆土部などから生える外来植物(主にオオブタクサやセイタカアワダチソウ)の除草を主な環境美化活動として毎月第2・4土曜日に取組んできました。

現在では、改修延長も伸び、平成18年4月に新規団体が『道保川を愛する会』の仲間として参入し、総勢110名の方々に継続的に取組んでおり、在来植物のセリ、ミゾソバ、マコモ、ヨモギなどが自力で再生しております。また、年間イベントとして4月には、総会の後席に道保川で育ったヨモギの草団子やセリのお浸しを賞味し、8月は子供会共催の川遊び、野草の天婦羅と流しソーメンを楽しみ、12月は老人会を招待した芋煮会を催し地域のコミュニケーションを深めております。さらに、会員が地元小学校の川を題材とした総合学習で講師を務めるなど、道保川において市と地域住民とのコラボレーションが実現し、自然再生が着実に前進しております。今後は「この様な仕組み」と「多様な生物相への連鎖再生」が相模川流域全体へ波及されることを期待しております。

ヤマメ vs. カマキリ vs. スナヤツメ

文・イラスト 浜口 哲一
(平塚市博物館 館長)

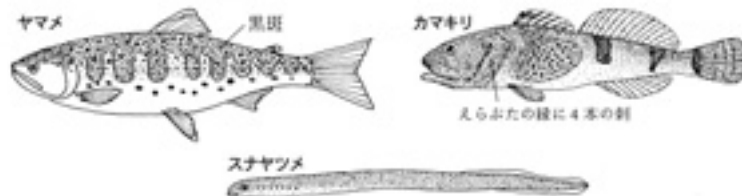
ヤマメ：今日はちょっと変わったメンバーの集まりになったね。さて、我々3名に共通する特徴は何でしょうと、クイズが出せるかな。

カマキリ：ふふふ、みんな魚というだけでは、正解とは言えないんだよね。

スナヤツメ：なんだかみんな楽しそうに話をしているけど、私たちに共通の特徴というと、喜べることではないわよね。

ヤマメ：実をいうとそうなんだ。この春に、神奈川県立生命の星・地球博物館から、『神奈川県レッドデータ生物調査報告書』という本が出た。県内で、どんな種類の動植物に絶滅のおそれがあるかをまとめた報告書だけど、我々3名は、その中で栄えある絶滅危惧1類(近い将来絶滅する確率が高い)にリストアップされたというわけだ。

スナヤツメ：ヤマメさんは、はしゃぎすぎよ。選ばれたのが栄えあるなんて不謹慎もいいとこ。私たちの将来に赤信号がともったわけだから、もっと深刻にうけとめなくちゃ。



カマキリ：スナヤツメ女史の言うことはもっともだけど、嘆いているばかりでは仕方がない。冷静に事態を分析しないとね。みんな絶滅の心配があるわけだけど、その理由はそれぞれ違うんだろ。

ヤマメ：そうだね。ぼくの場合は、水の冷たい上流の沢に住んでいるけど、森林が切られて水量が減るとか、砂防堰堤のために沢の水が伏流してしまうとかの問題がある。釣り人に人気があるというのも困りものさ。

スナヤツメ：私たちなんか、ほとんど存在が知られていないから、人気があるのはちょっとうらやましい気もするけど。

ヤマメ：釣り人に人気があるのは、釣られて困るだけじゃなくて別の問題の原因にもなっている。釣り人の中には、獲物をふやそうというので、稚魚を持ってきて沢に放流する人が多いん

だ。それも、どこのヤマメだか分からないものをどんどん放すので、相模川の子ヤマメと自信を持って言えるのはごく少数派になってしまったというわけさ。

スナヤツメ：私たちの場合は、すみ場所の環境がいちばんの問題ね。きれいなわき水があって、砂底の細い流れがあるとベストなんだけど、そういう場所がめっきり少なくなってしまったの。水の汚れはなかなか改善されないし、川底もみんな泥になってしまって息苦しくていけないわ。

カマキリ：ぼくたちには、また、別の問題がある。ぼくたちの場合、卵は海で産むんだけど、稚魚が川を遡る時に障害になるのが堰の存在だね。もとのすみ場所だった中流にまでなかなかたどりつけないんだよ。そういう意味で、相模川は決してすみやすい条件ではなくなっているね。

ヤマメ：なるほど、それぞれみんな事情が違うけど、もとをただせばみんな原因は人間にあるということじゃないか。

スナヤツメ：その反省でレッドデータブックを作っているということなんでしょうけど、何か効果のある対策を立ててほしいものね。

カマキリ：賛成。絶滅種にランクがあがったなんて冗談でも言いたくないものね。

参考文献 / 『神奈川県レッドデータ生物調査報告書』

県立生命の星・地球博物館 tel.0465-21-1515

ホームページ

http://nh.kanagawa-museum.jp/kenkyu/reddata2006/2006_07.html

出席者のプロフィール

ヤマメ：

サケ科の淡水魚。川の上流域で一生を過ごす。

カマキリ：

カジカ科の回遊魚で産卵は海で行う。肉食で魚などを捕らえる。

スナヤツメ：

ヤツメウナギ科の淡水魚。吸盤状の口が特徴。

桂川・東部地域協議会

実施済事業：大月市笹子町での大月森づくり会主催「植樹体験」事業に参加（4/30）。総会・講演「FSCの森林管理認証制度について」（5/7）。流域協議会が参加する「身近な水環境の全国一斉調査」への協力参加（6/4）。大月市七保町にて「川遊び及び炭焼体験」事業を実施（7/22）。大月市猿橋町の桂川にて「川の中の実態調査」を実施（8/25）。排水処理研究事業として牧丘町及び三富村にて「合併浄化槽先進地視察」（9/5）。上野原市の黒田川沿いの「クリーンキャンペーン」を実施（9/15）。排水処理研究事業として全国環境整備事業協同組合連合会会長を講師に迎えての「合併浄化槽研修会」（9/27）。桂川流域の合併浄化槽先進地として道志村を視察（10/3）。

今後の予定：「第6回きこ植菌体験教室」（3月を予定）。上野原市文化ホールで開催される「流域シンポジウム」に協力（11/12予定）。

その他：平成18年8月～19年3月まで毎月「NO₂測定」を実施。上野原市、大月市、都留市の各測定ポイントにて（会長 勝俣藤久）

さがみはら地域協議会

さがみはら地域協議会は、昨年6月25日に設立し、昨年度は、水ガキ養成講座、稲刈り体験講座、間伐材生ごみ堆肥箱実験取り組み事業を行いました。今年度は、体験講座を拡大して、稲刈りだけでなく、里山の一年を通して体験し、水循環や生き物の生態を学ぶ「里山体験講座」を事業として実施しております。既に、6月11日には、田植えとホタル観察会を実施し、8月28日には田んぼの草取りと田んぼと鳩川の生き物調査、10月15日に稲刈りを実施しました。今後は、11月26日に収穫祭（餅つき）、12月10日に里山の手入れを予定しております。皆様の参加をお待ちしております。

また、生ごみ堆肥化事業として、昨年度、水源林の荒廃を救う間伐材活用の推進を目的に間伐材生ごみ堆肥箱を作り、モニターを募集し、生ごみの計量を条件に、昨年9月から20名の方に実験を実施してもらっております。途中、意見交換を行い、現状の把握をしたところ、生ごみの堆肥化の成果として、4人家族で1ヶ月10～15kgの生ごみが減量できております。昨年度のモニターの方には、今年度も継続して実験を実施してもらっておりますので、一年間の実験結果をまとめ、ごみの減量について、話し合

う場として、実験発表会を今年度予定しております（日時は未定）。ごみの減量と水源林がつながるものとして、わかりやすく、個人で参加できるコンパクトなツールとして今後広がりが期待できますので、意見交換しながら拡大していきたいと考えております。（会長 松川義彦）

相模川湘南地域協議会

2006年度のこれまで：総会/総会講演会「相模湖・相模川・湘南海岸の土砂対策」（4/22）。クリーンキャンペーン（5/28予定）は雨のために中止。河川の水質調査（6/4、相模川他地元数河川で7名がそれぞれ3地点程度を測定）。上下流交流事業（8/22茅ヶ崎海岸での地引網と海岸清掃・かながわ海岸美化財団見学、約83名）への協力。（湘南地域協議会は寒川から小学生が参加、会員15名）。9/16平塚市博物館で見学学習会「展示にみる相模川の姿、相模川の舟運の歴史」。10/14現地観察会「相模川下流部左岸に広がる水害防備林」。バードマップの刊行、10月下旬発行。

これからの予定：11/2学習会「今年の各河川の水質はどうだったか」（茅ヶ崎市役所）、シンポジウム「湘南地域の鳥たち」（仮題）2007年2月を予定。（会長 井上 駿）

相模川よこはま地域協議会

6月8日のH18年度総会とともに、横浜市環境科学研究所・加藤良昭氏の記念講演「横浜市における湧水・地下水と水環境」開催。次いで、6月25日、かながわアジェンダ推進センター主催のエコ交流ツアー「水源地域：富士山麓・青木ヶ原樹海で温暖化を考える」に協力実施。また全水労主催「神奈川の水源見学会IN横須賀」（8月26日）への参加等。10月1日には東京都金町浄水場見学会、10月30日には神奈川水再生センター見学会を開催。

昨年度は、水道水利用者の立場を重視して見学・交流してきたが、今後は、水環境税の納税者と流域材利用者の視点でも活動予定。また、よこはま地域協議会独自のリーフレットを作成し、神奈川県東部地域の大都市部の市民に対して、「アジェンダ21桂川・相模川」の理念と行動計画を積極的に広報・啓発予定。（会長 牧島信一）

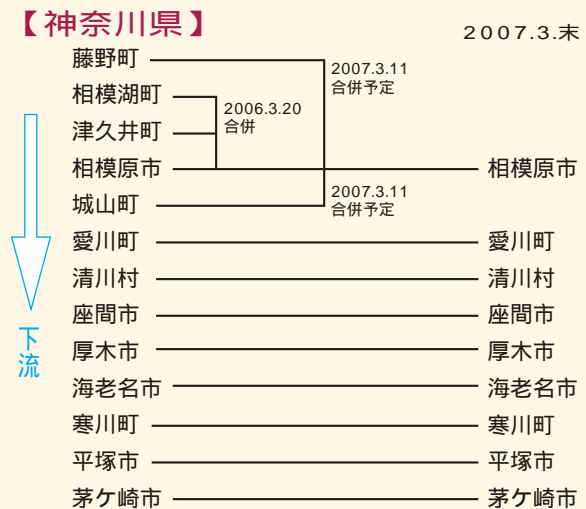
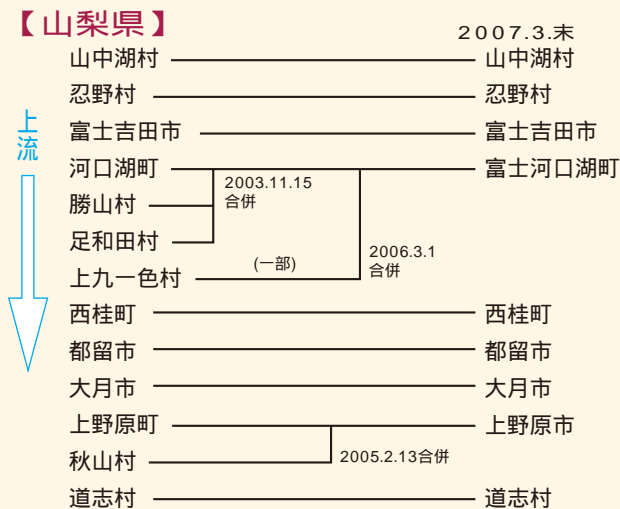
流域の話題

合併による流域市町村の変遷 (2003年以降)

近年、市町村合併の進展により、現在の流域市町村数は、10市6町4村となっております。

2003年以降に限ってみても、9つの自治体が合併しており、中には富士河口湖町のように2回にわたり合併を行ったところもみられます。

さらに、今年度末には、城山町と藤野町が相模原市と合併することが予定されており、流域をとりまく自治体も変わりつつあります。



桂川・相模川流域協議会入会のご案内

あなたのその力が豊かな水環境を創ります。
協議会では、さまざまな活動を通じて、水源環境の
保全・再生に努めています。

桂川・相模川流域協議会に興味を持った方はぜひ入
会してください。

個人会員は 年会費 1口 1,000円(1口以上)

団体会員は 年会費 2口 2,000円以上

事業者会員は年会費 1口10,000円(1口以上)です。

詳しい案内はこちら

< 振込先 >

郵便振替：振込口座 00220 - 5 - 10259
名 義 桂川・相模川流域協議会

銀行振込：振込口座 三井住友銀行横浜支店
普通口座 6825559
名 義 桂川・相模川流域協議会
代表幹事 河西悦子

ホームページの リニューアルについて

桂川・相模川流域協議会では、広く情報を発信するた
めに2001年9月からホームページを開設しておりますが、
2006年7月から内容をリニューアルしました。今回の
主な変更点としては、トップページをさらに見やすく、使
いやすいようにしたこと、桂川・相模川流域を地図と
写真で紹介した「桂川・相模川流域マップ」のページを
開設したことにあります。

この結果、リニューアル後1ヶ月間で741件(前年1ヶ月
平均比約50%増)のアクセスがあり、とても好評を得て
おります。みなさま、お気軽に下記アドレスにアクセスし
て下さい。

編集後記

いざまとめてみようとなると、掲載できる記事の少なさに驚くと
同時に、果たして発行できるかという不安が生じました。これが今
回の編集委員会の出発点でした。重なるアクシデント。あれは書け
ない。これはまだ事業が終わっていないで、何回も記事の変更を余
儀なくされました。

しかし、こうしてできあがってみると、そのときはどんなものにな
るだろうと思っていたことも、今では一つの通過儀礼だったことを
つくづく感じます。今回骨を折ってくれた委員の皆さん。忙しいな
かにもかわらず、急な原稿依頼を快く引き受けていただいた方々
に感謝します。(H.S)

今回はじめて編集会議に参加させていただき、大変勉強になりま
した。水源地での水質保全のあり方や河川のゴミ問題について、考
えさせられることが多くありました。

私たちの地域では、住民と行政が一体となったクリーンキャン
ペーンを行いました。参加した方々の環境への関心の大きさに驚き
ました。今後、流域地域だけでなく、全国で住民主導の美化運動が
活発になれば、100年後の未来に美しい川を残せると思います。(Y.K)

 色覚UD
この印刷物は色覚障害の方に配慮し制作しています。

本誌に対するご意見・ご感想を下記事務局までお寄せください。

あじえんだ113 No.17(2006.10.31発行)

発行 桂川・相模川流域協議会
編集 あじえんだ113編集委員会

桂川・相模川流域協議会ホームページアドレス <http://www.katura-sagami.gr.jp>
事務局 山梨県富士・東部林務環境事務所 〒402-0054 都留市田原三丁目3-3 TEL 0554-45-7811 FAX0554-45-7807
神奈川県環境農政部大気水質課 〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL 045-210-4127 FAX045-210-8846

(この冊子は再生紙を使用しています)